

過去の掲載図書

武山 良三（教養教育院長～R7.3.31）
読書は知識を得るためだけでなく、想像力を高める上でも効果的な行為です。紙の質感を楽しみ、自分のペースでページをめくり、文字を読む度に思いを巡らす。そこに大きな学びがあることが魅力です。
1. これからのデザイン思考 小山田 那由他，エムディエヌコーポレーション，2021年 色や形といったスタイリングではなく、なぜその色や形を使うのかといった考え方に着目した「デザイン思考」は、社会課題の解決や新たな価値創造に有効な考え方として注目されています。多くの本はスタンフォード大学で提唱されたデザインプロセスを軸としたデザイン思考を紹介しているのに対して、本書は考え方や図を用いたプロセスを紹介している点がお勧めです。
2. APPLE 三木 健著，CCCメディアハウス，2017年 「りんご」という誰にでもわかるものをテーマにしつつ、それを大きさや色、平面や立体、言葉や概念などさまざまな観点で捉え直すことを豊富な図版を用いて紹介しています。観察・分析・考察・立案・試作・表現といったデザイン思考の構成要素を、楽しく学ぶことができる本になっています。
3. 世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？ 山口 周著，光文社新書，2017年 論理的・理性的な情報処理のスキルが限界を迎えていること、世界を代表する企業経営者が直感や感性的なアプローチを重視した取り組みを始めていることを、「美意識」をキーワードにわかりやすく解説しています。最先端の技術を活かす上で、文化がいかに重要かが理解できます。
谷井 一郎（理系教育部門 ～R7.3.31）
地球規模課題への対応など人類・地球の未来へ向けて私たちが何をなすべきか、その答えは専門的知識だけでは得られません。様々なものの見方ができるように、特定の分野に偏らない多読をすすめます。私の学生時代を振り返ると山本周五郎の小説にのめりこんだ時期がありました。少し難しいと思う本は枕元に積んでおき、興味を持ったものから読んでいました。
1. What is life? ポール・ナース著，ダイヤモンド社，2021年 生命の本質は生物学者のみならず哲学的にも重要なテーマです。ノーベル生理学・医学賞受賞者である著者が子のテーマに答えています。およそ80年前に量子物理学者シュレーディンガーが著した同名の本のオマージュです。物理学者が生命の本質を見極めようとしたことは驚きです。
2. 生物と無生物のあいだ 福岡 伸一著，講談社現代新書，2007年 上記の本と同じテーマを扱っています。福岡氏は、「生命を動的平衡にある流れ」と見ます。見方が違えば生命の全く違う側面が見え、発想の柔軟さの重要性に気づかされます。福岡氏の本には文化系と理科系の知の統合があり読みやすく、そのほかの著書もおすすめです。
3. 沈黙の春 レイチェル・カーソン著，新潮社，1974年 1950～1970年代には産業の急速な発展による公害が大問題になりました。1962年に海洋生物

学者である著者はこの本で環境問題を告発しました。環境保護思想の源流がここにあります。環境汚染物質による先天異常や健康被害について、科学的知見に基づいた説明は説得力があります。

4. 7つの習慣 人格主義の回復 スティーブ・コヴィ著, キングベアー出版, 2013年
自己啓発本のベストセラーです。自分のライフスタイルや思考パターンを見直すための重要原則を、体験談を交えてわかりやすく説明しています。かつて朝から深夜まで仕事をしている時期にこの本(旧版)と出会い、様々な気づきがありました。社会に出る前に読んでおくことをおすすめします。

5. Life Shift (ライフ・シフト) L・グラットン, A・スコット著, 池村 千秋訳, 東洋経済新報社, 2016年
皆さんの親の世代のロールモデルは今の若い世代にとって必ずしも有効ではありません。本書は、若い世代がどのように人生を築くべきかを考える手引きとなります。仕事やお金のことでなく、お金の換算できない見えない資産の重要性など、学ぶことがたくさんあります。本書を手にとって、自身のキャリアについて考えてはどうでしょうか。

栗本 猛 (保健体育・情報処理部門 ~R7.3.31)

時間のあるうちに乱読でいいからたくさんの本を読んで、自分に合うものを見つけましょう。

1. データサイエンス「超」入門:嘘をウソと見抜けなければ、データを扱うのは難しい: truth or fake: data science techniques 松本 健太郎著, 毎日新聞出版, 2018年

フェイクに騙されず、データの信頼性を確かめたり、その意味することを正しく理解するための方法を身につけるための第一歩として目を通してみてください。難しい数式は出てきません。

2. 数学文章作法 基礎編 結城 浩著, ちくま学芸文庫, 2013年

書名に数学とありますが、数学を説明するのではなく数学の証明のような論理的文章を書くためのノウハウがコンパクトにまとめられています。理系、文系に関わらず大学でレポート等を書くのに参考となります。続巻として推敲編も出ています。

3. 物理学読本 第2版 朝永 振一郎 著, みすず書房, 1969年

物理学という学問を題材にして、科学的な考え方を伝えるための書籍。物理学を専門とする人にも、そうでない人にも非常に参考となります。